

自己評価票(ほたるの里)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	正面玄関にか掲示している	○	傾聴、受容、支持をあげている。認知症の理解に欠かせない基本的な事で今後もスタッフで取り組んで行きたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	お客様の権利を守る、プライバシーを守る一緒に行動し傍らに居る、自立のお手伝いをする、ライフスタイルを支援する、明るく開放的なホールで団欒に参加します、などを共有し実践できるよう努力している	○	新採用者にも理解されるようさらに努力して行く
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会時や来訪者にも説明している	○	理念の理解が大切な事を皆で共有して行く
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町のイベントや学校、幼稚園などへの参加、を心がけている。一年ごとに少しずつGHを見る目が温かくなっていると感じている	○	私たちも地域の一員である事を機会あるごとに発信していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年で3回目の評価であるもユニット管理者の入院や管理者の交代などもろもろの原因がありよく理解できていないと思っている	○	評価とは何かを思うように理解されていないさらに浸透するよう、呼びかけて行きたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており本年より人数も増員してきたんない意見を聞き入れている	○	入居者の状況、職員の状況などを話し合いながら今後も意見、助言を反映して行きたい
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月始めに利用者との状況を報告、問題があれば相談をしながら連携が図れるようにしている	○	4年目を迎えようやく新しい施設として認識していただいていると考えているので今後も一層の努力をして行きたい
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議や勉強会で行っているがまだまだ理解できていない	○	まだまだ理解できないでいるスタッフも多く機会を見て外部研修などに参加できるようにして行きたい
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力、力での暴力など虐待とは何かを事あるごとに話し合っているが時として理解できないスタッフも居る	○	今後も虐待、暴力について繰り返し勉強会を開いて行きたい、又その時々には出来ないスタッフには理解が出来るよう繰り返し話していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族には十分説明している	○	管理者のみでなく関りのあるスタッフの面会も出来るだけ出来るようこれからも努力して行きたい
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に設けてはいないが玄関に意見箱設置している	○	個々の毎日の変化に気づき、想いを組んで対応して行きたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	その都度管理者が連絡、報告している。又面会時にはスタッフが状態報告をしている	○	体調の悪さのみでなく帰宅願望、不穏時になどにもTELで家族の声を聞かせたり受診時の報告は随時行っており今後も密に行って行きたい
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との食事会やイベントへの参加を働きかけ、気軽に意見交換が出来るようにしているが参加者が少ない。意見箱は玄関に設置している	○	施設のイベント、入居者と一緒に出かける機会を持ち気楽に意見が言えるような場を増やして行かれるよう努力して行きたい
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場で会社の意向、職員の希望、要望などを聞く機会をもうけている	○	なかなか職員の意向は聞き入れてもらえない事もあるが意見交換はできているので今後も継続して行きたい
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来ていると思う	○	退職や病欠などもあるが希望には添うよう努力している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者中心の日々ではあるがシフト上やむをえない事もある	○	出来るだけ馴染みのスタッフで関る事が出来るよう努力して行きたい
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年から本社のほうで年間の計画を立てているので期待したい	○	信頼する、又育てる努力にはスタッフは不満を持っている。会社の方針しだいと考える
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域的に難しい面もありは入りにくいと感じている	○	想像していたよりは競争意識があり新規参入者には難しいと感じているも自らが出向いて行くよう努力して行きたい
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフも決められた人数で毎日業務に追われストレス解消にはいたっていない	○	シフト上の問題もある事と平均年齢40台後半のスタッフを抱え悩みはあるが機会を作って行きたい
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本社が離れており個々の状況把握は難しいと思われる	○	全体会議にも参加するが普段は見えていないので分からないと思われる。現場の声をしっかり聞いてもらえるよう努力して行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアの方針を立てるのに個人の特徴をまとめたファイルを作っており折々に説明している		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分の出来る事喜び、楽しさ、など居場所を通してゆったりと自由に安らげる環境の場の提供が足りないと考えている	○	今後はスタッフとの協議を重ねながら努力して行きたい
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時や外泊時などやや不安定になることもあり励ましながら自分の住むところであることをスタッフ、他者との会話を持って安心感を与えるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ話し合う機会、一緒に何かをする努力ははしている	○	仕事に追われともすると置き去りにされがちとなることも見えるのでもっとゆとりが持てるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携は欠かせず一緒に支えているという意識はある	○	出来るだけ本人とのかかわりを持てるよう家族に働きかけて生きたい
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活暦が非常に大切と考えている。	○	2ヶ月に一度家族との食事会などを通して施設での生活の一部でも理解して欲しいし距離が遠くならないよう働きかけていく
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人の面会も少なく馴染みの物を持参していただくよう働きかけてはいるが地域的に難しいのかもしれないと感じている	○	家族には説明もしているが今後も繰り返し理解していただけるよう努力していく
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の人格を尊重しあえるよう中にはいつて孤立しないにしている	○	認知症が高度になると受け入れられない入居者も見られるので取り持って仲良く生活が出来るようにしていきたい
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	町であつたりすると声を掛けたり一人暮らしになったときなどには近況を聞くようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手に言えない、又訴えられない入居者には思っていることを引き出し本人の現実を否定することなく対応している	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や入居時に生活歴の大切さを家族はもとよりスタッフにも説明し入居後の把握に努めている	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事、出来ない事本人の能力を引き出し自立した生活が出来るよう努力している	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア計画の理解が出来るよう努力している	○ チームで行うサービスの理解が欠けているように思えるため再度介護計画の勉強会を開いている。また担当居室をスタッフが決めて行うようにしている
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しながら本人、家族の意向を取り入れ話し合うようにしている	○ 状態に応じた見直しの大切さとその後の介護計画の建て直しなど情報交換の大切さを勉強していきその都度計画書を立て直して行きたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を行い、又カードックスにも記入し活用しながら何時からどんな状態が起きていたのか分かるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能ではないので不明		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	気持ちはあるが思うようにできていない。月に一度ボランティアさんが紙芝居などを持って来荘され終了後昔話に花を咲かせたりしている。又地区のイベントにも参加する機会を持っている	○	保育所、幼稚園、学校の行事にも参加できるよう働きかけて行きたい
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用していない。又地域柄なのか入居するとケアマネは終了という事業所が多い	○	新規参入のためか競争相手と見られていると感じているが自らが出向いていくべきで今後の課題としたい
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	町役場との連携は欠かさない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医から切り離すことなく継続して受診が可能となるように援助している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との相談の下総合病院のメンタル科を受診している		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が准看の資格があり健康状態などの相談をしている		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後良く面会に伺いNsやDrより聞く機会を持って連携をしている		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事が取れない、身体状態の悪化に関して訪問診療を行う医師がいない、また訪問看護ssもなく終末期までは見ることが出来ないが受診を繰り返し医療が必要となるとDr, 家族との話し合いを行っている		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	地区的な問題もあり施設での看取りは難しいと考えている。かかりつけの医師から切り離さず自分たちができる精一杯の支援はして行きたい		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	今までに経験がなく不明な点も有るが本人の状態 の報告や転居する場を実際に訪問し助言は出来る と思う		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	入居者個々がお客様という意識づけが大切な事を 関わるスタッフによって理解できないで居る事も 見られる。記録は書棚に保管している	○	未経験の介護が多く認知症の理解ができていない 者もあり折々に問題意識が持てるようにしていく
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	全てにおいて希望がかなうわけではないができる だけ要望、希望をかなえられるようにしている		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	どうかすると介護側が一方的になりやすいため繰 り返し入居者のペースに合わせて動くよう話して いる	○	その人らしさ、どんな事をしたいのか、はっきり 答えられる方はないが思いを組んで支援して行き たい
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理美容の希望があればそこに行き、今日はこの洋 服といえばそのようにし整容は気をつけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いできる方にはお願いし、季節折々の旬の物が食べられるよう配慮している。食べたい物を聞き提供したり、地域の料理なども聞きながら提供している		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	施設のイベントの時にはタバコ以外は提供している		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時の情報などを参考にしながらも排泄は出来るだけトイレと決めておりオムツを常時使用していても誘導できる方に関しては時間ごとに誘導している		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週／2と言わずに入りたい時に入れるようにしている	○	夜間の入浴や近くの温泉にも連れて行きたいと考えている
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望に添って居室でゆっくり休めるようにしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花を植えたりやさいを植えたり、簡単な家事のお手伝いなど役割が持てるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと不安に思う入居者も居るがしまい忘れが多く精神的に不安定になるため今は所持していない	○	外出時にも一度買い物をさせたらバナナを二房籠に入れ座り込んで食べ始めた事もある。また隠して居室に果物を置き腐っていたりカビが生えたお菓子を何時までも片付けさせようとしなかったりで問題はあるが食べきりにするなどの配慮を持って支援していきたい
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春から秋に掛けて出来るだけバスに乗って遠出が出来るようにしている		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	同上		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由で希望や要望はかなえている		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくりお話が出来るよう居室で話が出来るように配慮している		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全員が理解している。玄関の鍵日中はしていない（自動ドア）ベッド柵については移乗時良く使うので家族の了解の下柵を使用しているが紐でくくるなどはしていない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなくまた玄関は自動であるが手動としている		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認と見守りや声がけを行い夜間も終始日中と同じように行っている		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	SSの高い場所や物品庫に施錠をするなどして保管している		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	身体機能の低下は免れずスタッフ全員が本人の状態の把握に努める事はもちろん事故防止のための情報交換とチームワークが大切と考えており声がけ、見守り、観察を行っている		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法を年1回、事故発生時のマニュアルを備えssに掲げている		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年二回秋、春に行っている。又避難場所の確保も行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病歴、転倒、誤嚥など個々の状態の把握など家族にも色々なリスクがあることを入居時に説明し同意書などもとっている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	観察、判断、連絡と情報の共有は常日頃話し合っている		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬に関してはNsより説明があり特にDM、メンタルの内服薬については処方箋をよく読むようにしている。新しく処方になった薬については内服後の状態を記録するようにしている		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤が主でないことをいつも言われており野菜、果物、水分など摂取できるようにしている		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは欠かさずイソジンによるうがいも欠かさない		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の記録、食事の摂取量などその都度記録し全量摂取できるよう働きかけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	洗濯物は出来るだけ日光消毒、手洗い、うがい汚物の処理、食器の消毒、居室内或いは手すりなど毎日消毒している		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の掃除、調理器具の消毒食材も新鮮な物を購入し早めの調理を心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花壇を作り行きかう方には声掛けするよう心がけている		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物を作り、季節ごとに変えて季節感が出るようにしている、又TVの前には畳やソファをおいてくつろげるようにしている		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前でソファに座って昔の話などよくしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの品物の持込を繰り返し家族に説明しているがなかなか持ってきていただけないので写真や飾り物を貼っている		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日気温、湿度の調整をし一日を通して体感を聞いてカーデックスに記録している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下には手摺りも十分で居室も車椅子で自由に入出りできるように配慮している		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	いっぱいをしてしても否定せず出来る事への支援を優先している		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外には菜園を作り、草取り、収穫を楽しみ、又玄関には椅子を置き誰もがいつでも自由に座って外の景色が見られるようにしている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)